

主日礼拝

2022年07月24日
午前10時30分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。」

(ヨハネによる福音書4:23)

頌栄 27 「父・子・聖霊」

ちち子せいれいのひとりの主よ、さかえとち
からはただ主にあれ、とこしえまで。
アーメン。

交読詩編 119: 129~135

司式者: あなたの定めは驚くべきものです。

みんな: わたしの魂はそれを守ります。

司式者: 御言葉が開かれると光が射出で
無知な者にも理解を与えます。みんな: わたしは口を大きく開き、渴望しています。
あなたの戒めを慕い求めます。

司式者: 御顔をわたしに向け、憐れんでください

みんな: 御名を愛する者への裁きに従って。

司式者: 仰せのとおり

わたしの足どりを確かなものにしてください。

みんな: どのような悪もわたしを支配しませんように。

司式者: 虐げる者からわたしを解放してください。

みんな: わたしはあなたの命令を守ります。

司式者: 御顔の光をあなたの僕の上に輝かせてください。

みんな: あなたの掟を教えてください。

司式者: わたしの目は川のように涙を流しています。

みんな: 人々があなたの律法を守らないからです。

祈禱

献金

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。アーメン。

聖書 マルコによる福音書 8: 22~26

新約(新共同訳)P77

22 一行はベトサイダに着いた。人々が一人の盲人をイエスのところに連れて来て、触れていただきたいと願った。23 イエスは盲人の手を取って、村の外に連れ出し、その目に唾をつけ、両手をその人の上に置いて、「何か見えるか」とお尋ねになった。24 すると、盲人は見えるようになって、言った。「人が見えます。木のようですが、歩いているのが分かります。」25 そこで、イエスがもう一度両手をその目に当てられると、よく見えてきていやすれ、何でもはっきり見えるようになった。26 イエスは、「この村に入ってはいけない」と言って、その人を家に帰された。

賛美 51 「愛するイエスよ」

1. 愛するイエスよ、われらここにあり。
2. われらのおもい、闇に閉ざされぬ。
3. 栄えの主イエス、光の光よ。

世のおもいみな うしろにしりぞけ、
ただ待ち望む 聖霊の光を。
きよきみ旨のみ 果たしたまえ、主よ。
さんびと祈りを ささげさせたまえ。

- 愛するイエスよ、われらここにあり。
世のおもいみな うしろに退け。
みことばしたいで、ここに集まりぬ。
- われらのおもい、闇に閉ざされぬ。
ただ待ち望む 聖霊の光を。
きよきみ旨のみ 果たしたまえ、主よ。
- 栄えの主イエス、光の光よ。
心と耳と くちびるきよめて、
さんびと祈りを ささげさせたまえ。

説教 「交わりの中に」

賛美 509 「光の子になるため」

I want to walk as a child of the light
詞： Kathleen Thomerson, 1934-

HOUSTON
曲： Kathleen Thomerson, 1934-



1 ひかりの子になるため ついてゆきます。
2 主のかがやきみるため すすみゆきます、
3 主のふたたびくる日を まちのぞみます。



この世を-てらすため こられた主イエスに。
->しめされ-たこみちを みかみのみもとに。
しんを-まもりぬき、みまえに たつ日を。

(くりかえし)



主のうちにやみはなく よるもひるもかがやく。



こころのなかをわが主よ、 てらしてくださいます。

- 1 光の子になるため 従いてゆきます。
この世を照らすため 来られた主イエスに。

(くりかえし)
主のうちに闇はなく 夜も昼も輝く。
心の中をわが主よ、照らしてください。

- 2 主の輝きを見るため 進みゆきます、
示された小路を み神のみもとに。
- 3 主の再び来る日を 待ち望みます。
信仰を守りぬき、み前に立つひを。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにおります。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン



アーメン アーメンアーメン

後奏

司式 佐々木 悠
説教 向井 希夫牧師
奏楽 福原 之織

※お立ちになるのが困難な方は、

座ったままで礼拝をお守り下さい。

※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。